

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：42627

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12882

研究課題名(和文)知的障害者にわかりやすい情報提供のあり方に関する領域横断的研究

研究課題名(英文)An Interdisciplinary Study on Providing Easy-to-Read Information for People with Intellectual Disabilities

研究代表者

打浪 文子(UCHINAMI, Ayako)

淑徳大学短期大学部・その他部局等・准教授

研究者番号：30551585

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、知的障害者の主体的な社会参加における情報提供・コミュニケーションの言語的な障壁を低めることを目的として、知的障害者にとっての言語情報の「わかりやすさ」に関する知見を明らかにした。

本研究では、知的障害者向けの情報提供である「みんなが読める新聞『ステージ』」の編集過程および紙面を研究対象として、それらの質的分析と計量言語学的解析を行い、わかりやすさの傾向を析出した。さらに、外国人向けの「やさしい日本語」による研究実践であるNHKの「NEWSWEB EASY」と「ステージ」、およびNHKの一般的なニュースの3テキストの比較による言語的なわかりやすさの共通・相違性の解明等を行った。

研究成果の概要(英文):The purpose of this study is to reveal and propose practical ways for effectively providing information to those dealing with Japanese language barriers. We focused on Japanese compiled for people with intellectual disabilities, which has been studied less extensively than that for non-native Japanese speakers.

We looked at issues involved in equal access to information for people with intellectual disabilities based on a study of the process of the publication of a newspaper called "Stage". "Stage" is a newspaper written for everyone to understand, and published specifically for and by people with intellectual disabilities. And we compared three types of Japanese news articles on the same topics. We compared the vocabulary used and difficulty levels. The sources were "Stage", "News Web Easy", an online daily news compilation that Japanese Broadcasting Corporation (NHK) Organization produces for foreign residents in Japan, and NHK's regular online news.

研究分野：社会福祉学 特別支援教育学 障害学

キーワード：知的障害者 外国人 わかりやすい情報提供 やさしい日本語 「ステージ」 「NEWSWEB EASY」 計量言語学 障害者福祉

1. 研究開始当初の背景

2014年に日本が批准した「障害者の権利に関する条約」にも規定されているように、障害者の情報伝達・コミュニケーションの保障は重要な課題となりつつある。社会参加の手立てとして情報保障は重要な手段であり、特に情報工学を中心とした分野から情報技術開発によるコミュニケーション支援の研究が進められている。視覚・聴覚障害者への感覚モダリティの変換による情報保障は大きな進展を見せつつあるが、自己選択や自己決定に難しさを有する知的障害者は情報支援技術の改善と追究のみでは情報アクセスに関する困難が十分に解消されない。情報化社会の中で、知的障害者は情報伝達やコミュニケーションに関する複合的な差別および情報格差の下に置かれ続けている¹⁾。

知的障害者にとっては、伝達される情報に「わかりやすさ」が備わって、初めて届くものとなる。すなわち、知的障害者にとっての情報・コミュニケーションの保障とは、言語的に平易な表現、すなわち「わかりやすい」かたちでの情報伝達やコミュニケーションを行うことである。これらは彼らの社会参加の手立てとして、また権利の保障として重要な手段である。しかし、重度の知的障害者に対するコミュニケーション支援は社会福祉学領域に追究が多い一方で、中度や軽度の知的障害者にとって重要となる言語情報等の「わかりやすさ」を重視した情報保障に関する社会的実践および研究蓄積は、非常に少ないのが現状である。

学術的知見の不足は、知的障害者の社会生活に関わる領域にも見受けられる。2016年度より施行されている「障害者差別解消法」では、行政機関等の公的機関における合理的配慮の提供が義務付けられている。知的障害者への「わかりやすい」情報提供のあり方は合理的配慮として位置づけられるものである。しかし、「わかりやすさ」に関するガイドラインが作成されたものの²⁾、それらについての十分な学術的検証や裏付けがないままである。行政機関等において合理的配慮として提供される「わかりやすい」説明や文書による情報提供のあり方や、それらの文書作成における言語的な基準に、より具体的な形での検証を行う必要がある。

そしてその際には、知的障害者にとってコミュニケーションしやすい状況や理解しやすい言語情報の提示方法などの、知的障害を有する当事者視点に基づいた知見の解明が必須である。これらは今まで特別支援教育や社会福祉学の中でその手法の多くが追究されてきたが、教育学や社会福祉学領域の先行研究では、情報伝達は教育者や支援者の課題として捉えられ追究されてきた経緯を有する。ゆえに知的障害者の当事者視点を重視した「わかりやすさ」の学術的な蓄積は薄く、これまで研究代表者・及び分担研究者が実施

した部分的な示唆を得る数件の研究のみにとどまっている。知的障害者らの当事者視点に基づいた「わかりやすさ」の解明と、言語的なルールの明文化が求められる。

さらに、「わかりやすい」日本語による情報提供に関しては、すでに言語的な困難を抱える群（発達障害者・ろう者・若年層・高齢層等）への各領域における先行研究や実践がある。特に言語学に関連する分野でいえば、外国人向けの「やさしい日本語」には、文法構造の解明のみならず社会的な研究実践まで幅広い蓄積がある。しかし、これらと知的障害者等に対する情報保障を結びつけるものはなく、各領域における知見は分断されたままであり、応用可能性及び連携可能性もほとんど追究されていない。知的障害者のみならず、日本語での情報伝達において弱い立場に立たされてしまう人々の情報伝達・コミュニケーションの保障へ知見をつなげていく必要があるのではないかと。領域横断的な手法を用いて、各領域に点在する「わかりやすさ」に関して新たな知見を得ることにより、各分野をつなぐ発展的な学術的成果をもたらすことは喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究は、知的障害者の社会参加および彼らへの合理的配慮のあり方の追究に資するため、社会言語学・計量言語学・日本語教育学・社会福祉学・特別支援教育学等の視点と手法を横断しつつ、知的障害者への聞き取り調査等に基づいた「わかりやすさ」の解明、知的障害者向けの情報保障における語彙や文法構造の解明等の言語学的知見の導出、知的障害者向けの情報とその他の言語的困難を抱える人々の言語的な「わかりやすさ」の取り組みの比較と追究を目的とする。

具体的には以下の3つの小課題に取り組み、その詳細を明らかにするものとする。

小課題1

知的障害者の情報伝達・コミュニケーションの場面の言語的特性の解明、及び暗黙知の明文化

小課題2

知的障害者が編集に参加した新聞テキストの言語的特性の解明

小課題3

外国人向けの「やさしい日本語」研究と知的障害者の「わかりやすさ」の共通・相違性の解明

本研究では、上記の3課題を進めるにあたり、これまで国内で先駆的な実践を続けてきた、知的障害者を読者とする新聞「ステージ」（社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会刊）に着目し、「ステージ」の紙面および作成過程を研究対象とする。

「ステージ」とは、社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会により1996年より2014年まで刊行されていた、知的障害者を対象とした新聞の体裁をとる機関誌である。スウェーデンの読みやすい新聞『8 SIDOR』を参照して1996年に創刊された。知的障害者を読者として、全国規模で時事情報の継続的な配信を行っていた紙面媒体としては、国内唯一のものであった。ステージの編集会議のメンバーは、新聞記者・支援者・軽度または中度の知的障害者・発行媒体である社会福祉法人の編集担当職員・オブザーバー等の約10~20名で構成されていた。障害のある当事者が編集や原稿作成に加わり、原稿の読み合わせを行うことでわかりやすいテキストを作成していた。さらに、2011年6月号から最終号までは、知的障害のある編集委員の一人が編集長を務めていた。

「ステージ」は創刊当初から企画・編集の過程に知的障害者が編集委員としてかかわるといふ当事者主体性を有していたため、紙面の内容は、読者の生活年齢と興味・関心に即した話題が選択されていた。創刊当初は毎日新聞社の記者らが複数名記事の執筆や読み合わせの作業に加わり、議論しながらわかりやすさを模索していたため、創刊期は比較的一般的な新聞の紙面に近い構成がなされていたが、次第に「本人活動」を支援する媒体として、福祉的な内容や当事者の経験等が重視されるようになった。紙面は主に、関心の高い時事の話題、ニュースおよびニュースダイジェスト、趣味・芸能人へのインタビューなどのエンターテインメント、スポーツ、暮らし（障害者福祉や生活に関連する、役立つ特集記事）、各地の特別支援学校の特色ある取り組みの紹介、読者からの反響や交流的要素のある記事、時期ごとのテーマ記事・特集などで構成されていた。

紙面はA3版で8ページ、1996年当時はカラーと白黒の双方が使用されていたが、2010年夏号(54号)以降は紙面およびデザインが一新されフルカラーとなった。特に、54号以降は、テキストのわかりやすさに加え、全体的な見やすさに配慮された紙面構成となっており、写真や図やイラストが多用されていた。また、漢字には全て振り仮名がついていた。さらに、改行時に文節で区切るなど、視線の移動や情報の認知が容易になるような工夫がなされていた。

「ステージ」の特性である「わかりやすさ」を作成する上での当事者参加型の情報提供のあり方は、国内外でもほとんど例を見ない実践である。「わかりやすい」情報提供の先進的な実践を行う北欧諸国においても取り入れられていない。「ステージ」の紙面や編集過程を対象にした量的・質的分析と課題の析出により、言語的に劣位に置かれがちな人々にとって、当事者主体的な情報保障のあり方をモデル化することができると思われる。

また、小課題1および2で対象とした「ス

テージ」は「ニュース」の欄を設けており、時事情報等の記事が比較的多いことから、小課題3でも時事情報を対象とした実践を行っている研究実践に着目した。小課題3では「ステージ」の編集過程および紙面の分析と合わせて、外国人向けの「やさしい日本語」のニュースの提供を行っているNHKの「NEWS WEB EASY」(以下、NWE)との比較研究を行い、言語的困難を抱える人々に共通した「わかりやすさ」の解明に迫る。NWEとは、NHKによる国内在住の外国人への新たなニュースサービスとして、2012年4月に開設されたニュースサイトである。2012年の開設当初は一日に1、2記事程度、2013年6月以降は一日5記事を提供するようになっていく。記事は日々の出来事、外国人や子どもが興味を持ちそうな話題が選択されている。なお、日々の掲載数が限られているため、連続した同一話題よりも完結した話題や節目のニュースが採用されやすい傾向にある。時事情報以外にも、年末年始には日本の正月の習慣を紹介する記事が掲載されるほか、地震、台風などの災害の解説、注意点などが常時掲載されている。

3. 研究の方法

本研究では、3つの小課題のそれぞれについて、以下のような方法で検討を行った。

なお、研究の実施にあたり、小課題1~3すべての内容について、研究代表者が所属する大学の研究倫理審査委員会に諮り、承認されていることを申し添える。

・小課題1

小課題1では、知的障害者の視点からの「わかりやすさ」の要素や要因を明らかにするために、「ステージ」の編集場面への調査を予定していたが、本研究を遂行する過程で「ステージ」は休刊のままであったため、「ステージ」編集場面と同様のデータを取得するために以下の調査を企画し実施した。2012年4月から2014年3月までのNHKニュース25記事を元記事とし、そこから知的障害者向けの「わかりやすい」情報を作成した。これまで知的障害者向けに発行されてきた新聞「ステージ」の作成方法を踏襲し、「ステージ」の編集に関わっていた知的障害者および編集者の協力を得て、「ステージ」と同じ方法でNHKニュースをリライトした。工程は、①編集者による元記事のリライト、②障害のある当事者委員を含めた関係者全員に読み合せによる検討、③編集者による紙面掲載を意識した最終調整の3工程である。2016年7~8月に①、同年9~10月にかけて②、同年11月に③の工程を経て調査データを得た。あわせて②を録音により記録し照合した。

本工程に携わった編集者は、「ステージ」の編集を担当した経歴を有する2名であった。

知的障害者は、軽度または中度の知的障害を有し、かつ「ステージ」の編集委員としてわかりやすい情報の作成と提供に従事した経験のある6名であった。なお、この調査で作成された紙面の一部は、小課題3での比較にも用いた。

・小課題2

小課題2では、「ステージ」全69号分のテキストのデータ化を2種類の方法で行った。一つは、句点での改行を反映したテキスト（以下、句点改行テキスト）、もう一つは紙面通りの改行を反映したテキスト（以下、紙面改行テキスト）である。作成した2つのデータにアノテーションを行い、コードを付与した。このデータに対して自然言語解析を行い、計量言語学的観点から経年変化を分析した。

形態素解析はMeCab（IPAdic使用）で行った。また、国立国語研究所が公開している語種辞書「かたりぐさ」³⁾を利用して形態素の和語/漢語比率を調査した。また、難易度については、NWE制作現場で使用している日本語能力試験出題基準準拠の語彙難易度付与ツール⁴⁾を用いて分析対象テキストの語彙難易度の自動付与を行い、各テキストの語彙難易度の分布を調査した。

・小課題3

小課題3では、知的障害者向けの情報提供と、その他の言語的困難を抱える人々への情報提供のあり方を、それぞれに向けたテキストの比較から分析した。具体的には、「ステージ」と、NWE、およびNWEの元記事となったNHKのニュース記事のテキストを対象として、使用語彙の観点から比較・分析した。

対象としたのは、「ステージ」の2012年から2014年にかけて発行された62号から69号までの計8号分において、「ニュース欄」に記載のある記事、およびそれらのページ以外で時事情報の伝達を目的とした記事を含め、25記事であった。比較対象となるNWEは、ステージの25記事の各々に対して、同一トピックを扱う記事を手手で選定した。またNHKニュースは、選ばれたNWE各記事に1対1で対応する書き換え元記事である。なお、解析に用いたのは小課題2と同じ自動解析ツールである。

4. 研究成果

・小課題1（関連業績：学会報告②・④）

知的障害者向けのわかりやすい情報とはどのようなものかを当事者視点から明らかにするために、知的障害者向けの情報提供に関する編集・作成場面を調査し、知的障害者の求める情報提供へのニーズと、知的障害当事者の意見に基づいた情報の加除の傾向を

明らかにした。知的障害者向けに情報が編集される過程で、名詞の数が減少しており、語彙の出現頻度も全体的に減少傾向にあった。一方で、「こと、日本、東京」の3つは出現頻度が増えていた。例えば「こと」は、言葉の定義や解説に出現し、結果として増加していると考えられる。

また、知的障害者らの発言に見られる、文章全体に対する加除に関する5つの傾向を明らかにした。①背景や具体例に関する説明を加筆する、②図やイラストを用いた別枠にて表示する、③優先度の低い文章や難解な文章・段落を削除する、④文や段落を入れ替えて流れを整理する、⑤難解あるいは判断しづらい語彙に対するわかりやすいリライトへの要求、の5つであった。削除して焦点化するだけでなく、適切な形での加筆が「わかりやすさ」につながっていることが示唆された。

・小課題2（関連業績：論文②、および学会報告⑤、[その他]）

知的障害者向けの言語的な情報提供の特徴を明らかにするために、知的障害者向けの新聞「ステージ」全69号分の句点改行データおよび紙面改行データを作成し、それらの経年変化の分析を行った。

「ステージ」各号の1文の平均形態素数、すなわち平均文長を算出した。全号の平均文長は20.8形態素であった。初期の頃から4文字程度、文長が時間と共に短くなったことが明らかとなった。すなわち、知的障害者にとってのわかりやすさは文長と相関があるといえる。

一方、語種の割合を全69号で解析したところ、特段の経年的な変化は観察できなかった。標準偏差も小さいことから経年変化が小さかったことが明らかとなった。形態素品詞の割合の変化も同様に観察したが、特に経年的な違いは見られなかった。さらに、語の難易度レベルの変化を観察するため、日本語能力試験の基本語彙（Basic）、4級から1級の語、級の付与できない難しい語（OOC）、固有名詞（Proper）の割合を、自動解析器を使って各号で計算したところ、各号の難易度レベルの割合は経年変化していないことが明らかとなった。便宜的に基本語彙、4級、3級を「やさしい語」と考えると、全号でのやさしい語の割合の平均は80.3%となり、これは外国人向けの「やさしい日本語」よりもやや難しい結果となった。すなわちステージの語彙の使用は安定していたといえる。

なおこれらの分析にあたって作成したデータ（「ステージ」紙面改行データ・句点改行データ）は、特定非営利活動法人言語資源協会を通じて、研究成果の一部として公開した。

・小課題3（関連業績：論文①②、学会報告①・②・③）

知的障害者向けの「わかりやすい情報提

供」と外国人向けの「やさしい日本語」具体的な共通・相違の比較を行った。知的障害者向けの新聞「ステージ」と、外国人向けのNWE および NHK ニュースの三者の難易度や語彙の比較を行った。

分析の結果から、「ステージ」と NWE の共通点として形態素数や和語の率が近いことや、「外来語」や「人の属性を表す語」などの名詞や動詞を中心とした難解語彙の群があることが明らかとなった。また相違点として、「ステージ」には副詞や接辞等に「やさしい日本語」の基準に照らせば書きかえ可能なものがあること、さらに「ステージ」のみの特徴として同じ動詞をさまざまな形で重ねて使っていることが明らかとなった。

さらに、NWE と同一の元記事から知的障害者向けのニュースを作成した紙面の比較を行い、語彙および情報の加除の特徴にパターンがあることを明らかにした。

・本研究の総括

本研究は小課題 1~3 の解明を通し、知的障害者視点からの「わかりやすさ」に関する傾向と、知的障害者向けに作成された紙面からの「わかりやすさ」の導出、およびその他の言語学的領域の先行研究や実践のある「やさしい日本語」との相違・共通性の導出を行った。本研究を通して、知的障害のある当事者からの「わかりやすさ」に関する視点や、知的障害者向けの「わかりやすい情報提供に関するガイドライン」に記されている点への裏付けとなる検証結果が導出された。さらに、今後、社会的な実践として「わかりやすい」情報提供を促進する基盤となりうる、また今後の言語的困難を抱える人々の社会参加における共通性といった知見を明らかにすることが出来た。言語学的にほとんど着手されていない新規的な課題に対し、社会福祉学・日本語教育学、そして計量言語学的観点から領域横断的な社会言語学的知見を生み出し得たことが本研究の成果である。

今後の課題を挙げておく。まず、知的障害者への情報保障の普及のためには、知的障害者固有の難解語彙や生活語彙の特定や、「わかりやすい」情報提供の効果的なあり方をさらに追究し検証する必要がある。また、作成した「ステージ」のデータを今後も活用し、テキストのわかりやすさの追究だけでなく、視覚的な見易さとテキストの関係性を解明していく必要がある。さらに、今後の多文化共生社会において言語的困難を抱える人々が不利益を被ることがないように、言語的な平等としての「わかりやすさ」のあり方と、わかりやすさを必要とする人々の共通性や相違性について、理論的・実証的の双方からより深く追究していく必要がある。

本研究ではまだ「わかりやすさ」に関する課題の一端のみを明らかにしたに過ぎない。引き続き、領域横断的な視点から、知的障害者をはじめとする言語的な困難を有する

人々の社会参加に資するべく研究を継続する必要がある。

註

- 1) 古賀文子、「ことばのユニバーサルデザイン」序説—知的障害児・者の言語的諸問題の様相から—、社会言語学、vol.6、1-17、2006
- 2) 厚生労働省、わかりやすい情報提供に関するガイドライン、http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisihakukushi/dl/171020-01.pdf
- 3) 茂木俊伸・山口昌也・丸山岳彦・田中牧郎、語種辞書『かたりぐさ』の開発と月刊雑誌の語種構成分析、言語処理学会第 11 回年次大会予稿集、3-15、2005
- 4) 熊野正・田中英輝、Dependent Dirichlet Process を用いた日本語文書へのタグ付のオンライン学習、言語処理学会第 20 回年次大会論文集、1075-1078、2014

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 打浪 文子、知的障害者に対する「わかりやすい情報提供」と「やさしい日本語」、ことばと文字、査読無、vol.4、2015、22-29
- ② 打浪 文子、岩田 一成、熊野 正、後藤 功雄、田中 英輝、大塚 裕子、知的障害者向け「わかりやすい」情報提供と外国人向け「やさしい日本語」の相違—「ステージ」と「NEWSWEB EASY」の語彙に着目した比較分析から—、社会言語科学、査読有、vol.20、No.1、2017、29-41
http://doi.org/10.19024/jajls.20.1_29

[学会発表] (計 5 件)

- ① 打浪 文子、大塚 裕子、岩田 一成、熊野 正、後藤功雄、田中英輝、知的障害者向け「わかりやすい」情報提供と外国人向け「やさしい日本語」の相違—「ステージ」と「NEWSWEB EASY」の比較分析から—、第 22 回言語処理学会ポスター報告 (東北大学)、2016
- ② 打浪 文子、『やさしい日本語』の知的障害者への応用可能性—時事情報に着目して—、第 39 回社会言語科学会ポスター報告 (杏林大学)、2017
- ③ 打浪 文子、岩田 一成、リライトによって情報はどのように圧縮されるのか—NHK ニュースから NHK NEWSWEB

EASY/ステージへー、第40回社会言語科学会口頭報告（関西大学）、2017

- ④ 打浪 文子、岩田 一成、知的障害者とする『わかりやすさ』の特徴—作成過程に着目して—、第41回社会言語科学会ポスター報告（東洋大学）、2018
- ⑤ 打浪 文子、熊野 正、田中 英輝、後藤 功雄、美野 秀弥、岩田 一成、知的障害者向けのわかりやすい情報提供のテキストの傾向—『ステージ』の経年変化の分析から—、言語処理学会第24回年次大会ポスター報告（岡山コンベンションセンター）、2018

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕（計 1 件）

知的障害者向け新聞『ステージ』テキストデータ

<http://www.gsk.or.jp/catalog/gsk2017-e/>

小課題2の研究過程で作成した、知的障害者向け新聞「ステージ」全69号分の句点改行データ・紙面改行データを、非営利活動法人言語資源協会を通じて公表した。

6. 研究組織

(1)研究代表者

打浪 文子 (UCHINAMI, Ayako)
淑徳大学短期大学部・准教授
研究者番号：30551585

(2)研究分担者

大塚 裕子 (OTSUKA, Hiroko)
公立はこだて未来大学・特任准教授
研究者番号：10419038

岩田 一成 (IWATA, Kazunari)
聖心女子大学・准教授
研究者番号：70509067

(3)連携研究者

田中 英輝 (TANAKA, Hideki)
NHK 放送技術研究所ヒューマンインターフェース研究部・上席研究員

熊野 正 (KUMANO, Tadashi)
NHK 放送技術研究所ヒューマンインターフェース研究部・主任研究員

後藤 功雄 (GOTO, Isao)
NHK 放送技術研究所ヒューマンインターフェース研究部・専任研究員

(4)研究協力者

美野 秀弥 (MINO, Hideya)
NHK 放送技術研究所ヒューマンインターフェース研究部・研究員